2021（令和 3）年度　地域福祉活動支援事業（協働モデル事業）
あではで神奈川／かながわボランティアセンター協働事業

自分らしく、人とつながろう。

人との関係づくりが苦手な人のボランティア活動推進事業

≪ まとめ集 ≫

自分らしく、人とつながろう。

人との関係づくりが苦手な人のボランティア活動推進事業

≪まとめ集≫

もくじ

はじめに 1

1．「ワークショップ」あではで×県社協（協働モデル事業）プログラム .. 4

（1）「ワークショップ」について 4

（2）「ワークショップ」プログラム・グループワークの進め方・ワークシート 5

（3）「ワークショップ」（実施3回分のまとめ） 8

（4）「ワークショップ」参加者の声 12

2．人との関係づくりやコミュニケーションが苦手な人の「参加支援」 .. 16

（1）価値創造型の側面から 16

1．障害のある人の「参加」

2．発達障害の特性

3．「発達障害」をとりまく福祉課題

4．人との関係づくりやコミュニケーションが苦手な人の「参加支援」

5．おわりに

（2）課題解決型の側面から 22

1．ボランティア―自らの意思で参加する

2．ボランティア活動の考え方

3．身近になったボランティア活動

4．ボランティア活動のもつイメージ

5．人との関係づくりやコミュニケーションが苦手な人の「参加支援」

6．おわりに

≪資料編≫ 28

（1）特定非営利活動法人　あではで神奈川 28

（2）地域福祉活動支援事業（協働モデル事業）　取り組み経過 30

（3）地域福祉活動支援事業（協働モデル事業）　構成員名簿 31

は じ め に

今回の協働事業のテーマは、「自分らしく、人とつながろう、人との関係づくりが苦手な人のボランティア活動推進事業」ということで、ボランティア活動とは何だろうと、改めて考える機会となりました。

まずは、今年で 21 年目を迎える「あではで神奈川」の活動のあり方を多様な形でのボランティア活動ととらえて考えてみました。というのも、私達の活動がボランティアであるという意識がなかったことに気付いたからです。

「あではで神奈川」は、発達障害とその周辺の生きづらさを抱えた人たちが、よりよく生きていく為に、助け合い、支えあっていくセルフヘルプの会です。会の活動では、当事者が社会や他者との関係の中で自分らしい生き方を見つけ、そのままの自分を大切にしていくことを重視しています。会員同士が会って話し合うこと、自分自身の人生を語り、持っている特性を理解し、受け入れ、自分らしい生き方を見つけようとしていくことを大事にしています。会の開催はできる限り、同じ曜日で、同じ時間、同じ場所で同じ係がいることを心がけてきました。お互いに安心して、いつもの環境で心置きなく話し合います。

このように、社会生活の中で生きづらさや困り事を感じるありのままを会に来て話すこと、すなわち、自分なりのコミュニケーションのやり方で人と繋がる中で得られる安心感や自分の生き方の発見。このような活動が果たしてボランティア活動と言えるのだろうか？

協働事業を進めて行く中で、私達は仲間同士で何度も話し合う時間を持ちました。そして、ボランティアセンターの担当者、アドバイザーとして入っていただいた岸川先生と数回のミーティングを持ちました。まずは、協働事業名である「自分らしく、人とつながろう」の「自分らしさ」とは？を見つめ直すことをワークショップで実施することとなりました。

コロナ禍ということもあり、限られた人数での参加でしたが、会員同士が集まり、グループディスカッションを行いました。「自分の好きなこと、得意なこと、誰かの為にできること、してみたいこと」をグループ内で話し、聴き

合うことを通して、自分のいいところに気付いたり、なにより安心して楽しく話せて、仲間としての繋がりをお互いに感じることができました。また、アドバイザーの岸川先生から「自己覚知」ということを教えていただきました。

自分はいったいどんな存在なんだろうか？何が好きで、どんな時に幸せを感じるのか？と自身を再発見することによって元気になり、そしてどのように社会と関わっていくかを新たな視点で考えることができました。

仲間同士で行うことにより、お互いに分かち合え、豊かな気持ちになりました。「自分らしく生きる」という、「あではで」の会の活動が、人との関係づくりが苦手な人、障害があってもなくても、それに気がつかずにいる人、どのような人にとっても、「ボランティア活動がしたい」「社会参加したい」というニーズの実現に少しでも繋がり、一人一人が身近な人や地域の人たちと良い関わりをもてることを願って、今後も活動していきたいと思います。

最後に、今回のまとめ集作成にあたり、いつも的確なご助言で支えてくださり、ワークショップの講師を引き受けてくださった岸川先生、慣れない運営の私達を常に暖かく見守り、励ましてくださったかながわボランティアセンターに心より感謝申し上げます。

特定非営利活動法人　あではで神奈川

ともに生きる福祉社会づくり推進のための「ともしび基金」を原資とした「地域福祉活動支援事業」（協働モデル事業）では、2021（令和 3）年度に 3 つのテーマを掲げ、そのテーマの一つとして「自分らしく、人とつながろう、人との関係づくりが苦手な人のボランティア活動推進事業」（以下、本テーマ）をかながわボランティアセンター（以下、ボランティアセンター）から提案しました。そして、岸川　学氏（神奈川県立保健福祉大学）の協力のもと、NPO 法人あではで神奈川（以下、「あではで」）とともに企画ミーティングを重ねながら、進めています。

従来、ボランティア活動は福祉をテーマとするものが多いことから、人との出会いや交流など、「つながること」を重視し、多様なつながりの中での気づきや感動などに固有の価値があると考えられてきました。しかし、このつながりの考え方ややり方は、「人との関係づくりやコミュニケーションが苦手な人」には重く感じられ、ボランティア活動や社会活動への参加のハードルを高くしているとも考えられます。

また、近年の障害福祉制度では、障害者基本法（2011 年）にはじまり、障害者差別解消法（2016 年）において、「不当な差別的取り扱い」の禁止、「合理的配慮」の提供は、ボランティア活動においても対象範囲と明記されましたが、障害等の有無にかかわらず、すべての人々が安心してボランティア活動に参加できる状態までには至っていません。

協働モデル事業をともにすすめている、「あではで」は、団体設立当初からボランティアセンターが運営する「セルフヘルプ相談室」など、県内各地で長く相談活動やグループミーティングを行ってきました。そして、今回協働するうえでは、「あではで」の活動の基礎にある「自分らしく生きる」の考えが本テーマと結びつき、互いに影響し合っている点は大きなポイントです。

地域共生社会の実現にむけて、社協ボランティアセンターでは、合理的配慮の提供等を含めたボランティア活動の環境整備、また、「参加支援」の具現化や新たな参加の可能性を探るためのプログラム開発、ボランティアコーディネーターの育成強化などの取り組みが求められています。

本まとめ集は、これまでの取り組み過程をまとめたものになりますが、ボランティアセンターでは、引き続き、「あではで」とともに、多様な形でのボランティア参加の可能性を考えていきます。

神奈川県社会福祉協議会
かながわボランティアセンター

1.「ワークショップ」あではで×県社協（協働モデル事業）プログラム

「あではで神奈川」とかながわボランティアセンター事務局、アドバイザーである神奈川県立保健福祉大学講師の岸川先生の 3 者で協働モデル事業全体を考える企画ミーティングを行いました。その中で、自分のやりたいことをやった結果が社会に求められていることと合致した時、社会貢献できたと実感するのではないかとの意見があり、当事者の社会参加について考え、「自分らしく、人とつながろう。誰かのためにできることを見つけよう。」をテーマにワークショップを行うことになりました。

（1）「ワークショップ」について

1　ワークショップの当日の様子

当日は、ワークショップを通してわたしの夢、希望、可能性を確かめてみること。ことばにした夢、希望、可能性から、誰かのためにできること、したいことを考えることを目的に、会員が思い思いに自分の気持ちを語りました。

日ごろ顔を合わせている人、長い付き合いがある人同士でも、「知らなかったこと」がたくさん出てきました。なかには、ワーク中にグループメンバーの話を聞きながら自分の「好きなこと」「得意なこと」を見つけ、ワークシートにたくさん書きだしている姿も見られました。

2　ワークショップでの気づき

日頃、「あではで」の活動は複数の場所で行われています。活動場所が違うメンバー同士が顔を合わせる機会は少なく、活動場所に関係なく集まれる今回のワークショップは会員同士の「交流」という面で新しい取り組みとなりました。

平日働いている会員も参加できるように、休日の開催やオンラインによる開催も行ったことで、普段の「あではで」の活動に参加をしていなかった人、遠方（県外）の人も参加。日頃、会って話すことができない人とも話し合いたいと、２回ワークショップに参加した人もいました。同じテーマであっても、グループメンバーが変わると雰囲気や話の展開などの広がり方は様々で新しい気づきが

得られた、という声が聞かれました。

とくに、グループワークでは、グループメンバー同士の意見交換により、自分では気づかなかった得意なところや自分らしさに気づきを得る体験になりました。さらに、講師やファシリテーターの協力で、誰かのためにやってみたいことについて、それぞれの参加者が具体的になりました。

（2）「ワークショップ」プログラム・グループワークの進め方・ワークシート

◇ 「ワークショップ」 プログラム ◇

1. ワークショップのテーマ

「自分らしく、人とつながろう。誰かのためにできることを見つけよう。」

2. ワークショップの目的

●ワークショップを通して私の夢、希望、可能性を確かめてみる。

●ことばにした夢、希望、可能性から、誰かのためにできること、してみたいことを考える。

3. 内容

●グループディスカッション

①私の「好きなこと・得意なこと」をグループメンバーにお話しする。

②グループメンバーが語る「好きなこと・得意なこと」を聴く。

③私とグループメンバーの「好きなこと・得意なこと」から、誰かのために「できること・やってみたいこと」を見つける。

4. 進め方

●グループは 5 名で構成

●グループの話し合いにファシリテーターが入る

●グループメンバーの「好きなこと・得意なこと」を「誰かのためにできること」に整理する。

●「誰かのためにできること」をグループメンバーで共有する。

●各ファシリテーターがまとめをする

5. 日時　〇〇〇〇年〇月〇日（〇）　〇:〇〇～〇:〇〇

6. 場所　〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

7. タイムテーブル

時　間	内　容
〇:〇〇～〇:〇〇（15 分）	ワークショップの説明
〇:〇〇～〇:〇〇（75 分）	グループメンバーによる意見交換 ①私が好きなこと・得意なこと ②私が誰かのためにしてみたいこと・できること
〇:〇〇～〇:〇〇（30 分）	まとめと振り返り

◇「ワークショップ」 グループワークの進め方 ◇

グループワークには「3 つの時間」があります。

①私が話す時間＝私がグループメンバーに話します。
②質問をする時間＝皆がグループメンバーに質問をします。
③私が話を聞く時間＝私はグループメンバーの話しを聞きます。

※今がどの時間なのかファシリテーターが説明します。
※「3 つの時間」を大切にしながら進めます。

◇「ワークショップ」 ワークシート ◇

※ このワークシートを事前にご記入の上、
ワークショップにお持ちしてご参加ください

1. グループメンバーに伝えたい「私の好きなこと」（最大5個まで）

①
②
③
④
⑤

2. グループメンバーに伝えたい「私の得意なこと」（最大 5 個まで）

①
②
③
④
⑤

3. 誰かのために私がやってみたいこと（最大 5 個まで）

①
②
③
④
⑤

（3）「ワークショップ」（実施3回分のまとめ）

私の「好きなこと」

私の「得意なこと」

誰かのために「できること・やってみたいこと」

①新しいことを発見すること
②いろんな人と触れ合うこと
③人を喜ばせること
④音楽を聴くこと
（文章が苦手だが、音を聞くとすごく安心する）
⑤旅行

昔は人と被るのが嫌だった。最近はどちらかというと、自分らしく自分の意志で選ぶことを大事にしている。そこが面白い。研究という仕事を選んだのもそういうところ。

①音楽を聴くこと
②サックスを演奏すること（学生の頃にジャズバンドで吹いていた）
③自称日本史オタク（唯一、勉強が苦にならない。最近はそれに関連する政治の本や、「あではで」に関わり出してからは、簡単に書かれている心理学系の本を読むこともある）
質問：（なぜ、日本史が好きなのか？）
➡小学３年生の頃に親が『マンガ日本の歴史』を買ってくれた。それから、図書館では、偉人伝を読むようになった。中学校に行くと、先生より知っていることが出てきたり、先生に突っ込んだりすることが楽しかった。
④洋菓子が大好き。一日１回、おやつの時間に何かを食べる。街を歩くと素通りできないほど。
⑤寝ること

①ポジティブシンキング。見方を変えたりして良く捉える。
②事例を知っていること、経験したことから背景の問題やパターンを見つけるのは得意
③人の思考パターンで推測することが得意（当たっていることが多い）
④相手の気持ちに合わせたりすることは得意
⑤数字にかかわることの理解が早い。

①安心できる場を作りたい。安心して話せる場があると、そこから新しい発見があると思う。
②人と人をマッチングしたい。新しいものが生まれたらいいと思う。
③経験したことをもとに手助けしたい。知識を生かしてほかの人のためになるといい。
④法則やパターンを探すのが得意。当事者活動の成果をもっと共有出来たらいいなと思う。

①サックスを演奏すること
②日本史知識があるので、歴史の記事を文脈に流されず、自分なりの見方で読める。
③どこでも寝れる。

①海外駐在が長かった。見知らぬ土地で暮らすのは、とても心細く不安だった。拙い英語力を生かして、近所の外国人の困りごとや相談に乗ったり、サポートをしたい。
②日本史が好きなので、地域の歴史を説明したりすることはできるのではないかと思う。日本のことを外国の人に伝える機会があればやりたい。

①活字中毒で本を読むこと
②教育に携わってきたので、子どもと触れ合うこと
③料理
④好きなギタリストの曲を聞いたり、コンサートに行く（ラジオで聞いてから、いいなと思って、ファンクラブに入った）
⑤お茶（ほうじ茶）

①英語をわかりやすく、楽しく教える。
②料理をして、友達を呼んでもてなす。
③保護者やお母さんの話を聞くことが多いが、黙って話を聞くことは苦にならない。

①不登校の人の居場所づくりに参加して、子どもたちに英語を教えることができるかもと思った。
②英語の蔵書がたくさんあるので、大人へも還元できればと思う。

①ちまちま作ること(お菓子・園芸を今後やりたい)
質問:(作るというのは昔から?)
➡工作とか、何かしら作っている。ずーっと家にいても生きていける。
②バドミントンをすること

①人の話を聞くこと。その面白さを「あではで」で知った。
②本音を聞けるところまで聞く。その豊かさを知った。
③工作、創意工夫(福祉関係の仕事をしていて、どうやったら一人でできるか考えて自助具を作ったりしている)

場があるということが救われた。座って、しゃべる場を作ること。気軽に居られる場を作れるといい。

①オンラインでドラマを見ること(子どもが小さい時にはできなかったが、今は 10 話を一気に見ることができるようになった)
②本を読むこと
③舞台を見ること(バレエ・演劇)
④日向ぼっこ(ベランダで雲を見る)

①子どもの相手をすること、読み聞かせすること
②他の人が言いたいことを言葉にすること
③話を聞くこと

改めて人の話を聞くこと、人と人をつなげる、出会いの場を作り続けることをやっていきたいと思った。

①断捨離
質問:(断捨離ができるっていうことは、不安がないということ?)
➡不安を一掃したい。考え事、悩み事を忘れる、払うというのが断捨離に繋がっている。
②部屋の模様替え
③自分時間を設けて録画したテレビ番組を見ること。休日、自分の空いた時間を意識して設けている。

①断捨離
②部屋の模様替え
③自分時間を設けて録画したテレビ番組を見ること。休日、自分の空いた時間を意識して設けている。

家族に自分の気持ちを自然体で伝えたいな。家族のためになるのかはわからないけど。本音が言えなかったりするので。

①人に喜んでもらうこと
②自然の中でまったりする。
質問:(自然や動物とのふれあいが好きなのか?)
➡人と話すのが緊張する。人がいない場所で外からの刺激が受けない場所が好き。余計なことを考えなくて済むから。
③ゲーム
④動物
⑤水の中に入ること
質問:(水の中が好きとは?)
➡小さい頃からプールで泳ぐのが好きだった。水の中にいると安心感がある。陸の上では体験できないゆらゆらした感覚。

①人前で踊ったりする。
②マッサージをすること
③人前でなにかする(講演や発表など)。
⇒障害者雇用の身で講演会をしたり、ボランティアで日本舞踊を披露したことがある。

①踊りのボランティア
②マッサージのボランティア
③頑張りたい人のサポート

①人としゃべること(特に飲み会でお酒は飲まないが本音を聞いて、その人の別の一面を発見する)
②子どもが好き。
③スキー場、雪国に行くのが好き。

①料理をすること。最近、両親が歳を取ったのもあり、介護食の本を買って作っている。
②読み聞かせ。長年、市のボランティアグループで活動しており、文科省から表彰された。

障害者手帳を持っている人が、成人になって親から自立した時に住めるグループホーム。夫の父が遺したアパートを利用できたら。または、親との関係がうまくいかず、家出をした人とかの居場所づくり。

①キラッとしたことをいう。職場でも自分の娘と同じくらいの世代の子と話す中で知らないことに出会った時。

①穏便に異なる年齢の人ともうまくやれること。年上を持ち上げて、年下には話を聞く。
②このものをこれに利用できたらよいかと考えること

障害者関係の仕事をしている。成年後見人をやりたい。専門的な仕事がしたい。もともとはおせっかいな性格なので、その集大成として。今から勉強してできることはないかなって探したところ、私だったらこういう風にできる、社会的な何かに乗っかっていきたい。

①歴史の本を読むこと(大河ドラマを小学生の頃から見ている)
②プログラミング(Python)を勉強すること
③数学や計算なども好き。

①パソコン使った作業(データ入力・マニュアル作成、Excel マクロ)
②中国語を話すこと、発音すること

昔、横浜に住んでいて、「あではで」にも参加していたが、○○県に引っ越した。得意なことを生かして自分でも何かできないかなと思っている(発達障害の方へ便利なプログラミングとか)。横浜に行って、「あではで」にも参加したい。

①身体を動かすこと
②音楽を聴くこと
③寝ること

①どんなに考えても得意なことがなくて…見つけたいなと思っている。ずっとこれが課題。
質問:(身体を動かすことは何か決まっているのか。)
➡特に決めてやっているわけではないが、動くことは好きなので、動くことが必要な作業がある時は率先してやる。
掃除とかやるのは苦でない。
質問:(それは得意なことではないのか。)
➡そうかも。<u>身体を動かすこと</u>

①漠然としているが、平和につながること。
この前、「自分らしく生きる」講演会で触発された。私は障害者の施設で働いていて、(そこに通う方は)言葉で自分のことを表現することが難しい。その人の意思や思いを言葉にするお手伝いをしたい。自分自身も言葉にすることはすごく苦手なので(その困難さはよくわかる)。

※不得意なことを避けるとか、苦手なことを捨てて、得意なことを伸ばすという考えがある。一方、難しいところがあっても、周りの人のことに自身の思いを重ねて一緒に向き合っていくという考えもあり、どちらの考えも十分理解できる。

①人と話すこと
②人の話を聞くこと
③歌うこと、楽器
④人が好き、興味がある。
⑤サスペンスドラマ

①人の夢を実現すること
②誰とでも対等に話すことができる。
③声

“受け身”のことをやっていきたい。

①エコについて考える。
質問:(エコとは?)
➡いま、マイクロプラスチックについて関心がある。
質問:(マイクロプラスチックとは?)
➡スポンジを使うと、摩耗してプラスチックになり、知らないうちに海を汚していることを知った。だからと言って、買い込んでいるものを一気に捨てるのではなく、徐々に変えていくようにしたい。
②自分よりも年齢が上の人の思い出話を聞くこと
③朝の連ドラで人間観察すること

おいしそうな食材(特に野菜)の目利きができる。おいしい状態がわかる。

おじいちゃん、おばあちゃんの話を聞くこと。ご近所のおじいちゃんの自慢話を聞くことは好きだった。母も放っておくと、6時間くらい話を聞く人だった。
質問:(人間観察の一環ですか?)
➡「あではで」の「ペアレントトレーニング」で聞き方は出会った。聞くことの楽しさは「あではで」で教えてもらったことだと思う。それまで自分のことだけだったのに、人それぞれなんだということがわかった。

①寝ること(何もなければ一日寝てられる)
②食べること(好き嫌いがない、子供の頃は大食い)

①道を覚えること(紙の地図を見ることは好き)、道を教えること
②整理整頓(掃除機をかけなくても平気)
③金銭管理、目標を決めて貯金すること
④スポーツ
(スキー、スノボ、水泳、それらを教えること)

「あではで」では名簿管理の手伝いをしている。依存(アルコール・薬物)の当事者会と発達障害の会で会計の手伝いをやっている。立体折り紙。細かいもの。

①おいしいものを食べること(特に甘いもの)
②緑の見える場所に行くこと
質問:(緑の見える場所のおすすめスポットは?)
➡近所のお店から眺める。コーヒー飲みながら緑の多い場所を歩くのもよい。
③映画を見ること
④劇やアニメの赤毛のアンをみること

おいしいものを食べたいと思って、作るのは好き。子どもが味に厳しいので苦しいこともある(*同じ味でないと不安がられる)

子どもが小学生の時、読み聞かせボランティアをしていた。それができたらいいかなと思った。

①TVドラマ(怖くない、ヒューマン系)を見ること
②雑貨屋、蚤の市などを巡って、買う買わないではなく、想像すること(見てかわいい、どんな使い方するのか…)
③寝ること

乳児を寝かしつけること

ベビーシッターとか。乳児を見るのが好きなので、体力がないことは置いておくならば、そういうのができたらいいなと思う。

①食べること
②芸術(絵を描く、お芝居)
③読書、朗読
④お笑い

①お芝居の演出を考えたり、自分で演じたりする
⇒発達障害の理解、啓発のボランティア活動で寸劇の芝居をやったりしている。

①朗読ボランティア
②YouTube

①作曲
②リトミック(子どもたちやシニア、障害者へ教える)
③白クマグッズを集めること
④最近気づいたことを発表すること、研究すること
⑤片付けること

①作曲
②冷蔵庫に余っているもので適当に料理する。
③予定を立てたり、ものを収納する時、テトリスみたいに組み立てていくことが得意
④話し合いにそもそもそれが必要なのか、そもそも論で視点を変えて考えるのは得意
⑤色にこだわるところ

①リトミックを世代問わずにやってもらう。
②作曲に対するハードルが高いので、作曲が体験できるようにしたい。
③多世代の地域交流の場を作りたい。
④健康のためになることに興味がある。
⑤収納や整理が得意なので、何か役に立てばと思う。

①人と話すこと
②人の話を聞くこと
質問:(例えば、どんなこと?)
➡人の悪口ですかね。人の悪口を言っている人って、根っこのところに何があるかわかって面白い。楽しく聞けてしまう。愚痴のうまい聞き方を考えていたら、意外に楽しく聞けた。
質問:(新しいことを見つけるのと似ているのかな?)
③小さいことで面白いこと探し
質問:(例えば、どんなこと?)
➡下を向いてる時はタンポポが咲いてるとか、地球上の第一発見者になった気分になる。小さな金具が落ちていると、なんで金具が落ちたかストーリーを考え始めたりする。普段歩いている道も面白がって歩いている。人にハイテンションで言ってしまうので、大抵の相手は引いてます。
④一人カラオケ(コロナでここ2年行けていないが、月に一回、3時間は行っていた)
⑤文字を書くこと

①無駄な時間を過ごすことは得意。あえて時間をかけたり、遠回りしたりする。
②人が気づきにくい変化に気づく。
③今あるものの有効活用
④言葉のストレートパンチが強い。
⑤非難されること、困らせることをおもしろがれること

①(「誰かのために何かをする」を考えたことがなくて)ルールが全くない「フリースペース」を作りたい。
現状で言うと社会資源もルールがあって、添わなければ利用できないものがある。それに不満を感じている現場や保護者がいる。じゃあ、ルールが全くなかったらどうするの?作ってみて、ルールがなぜあるのか考える場にできると面白いと思っている。
②各区役所にわくわく課を作ってくれないかなと思う。
③『学校へ行こう!』というテレビ番組があるが、屋上から叫ぶのをやりたい。熟年の主張もある

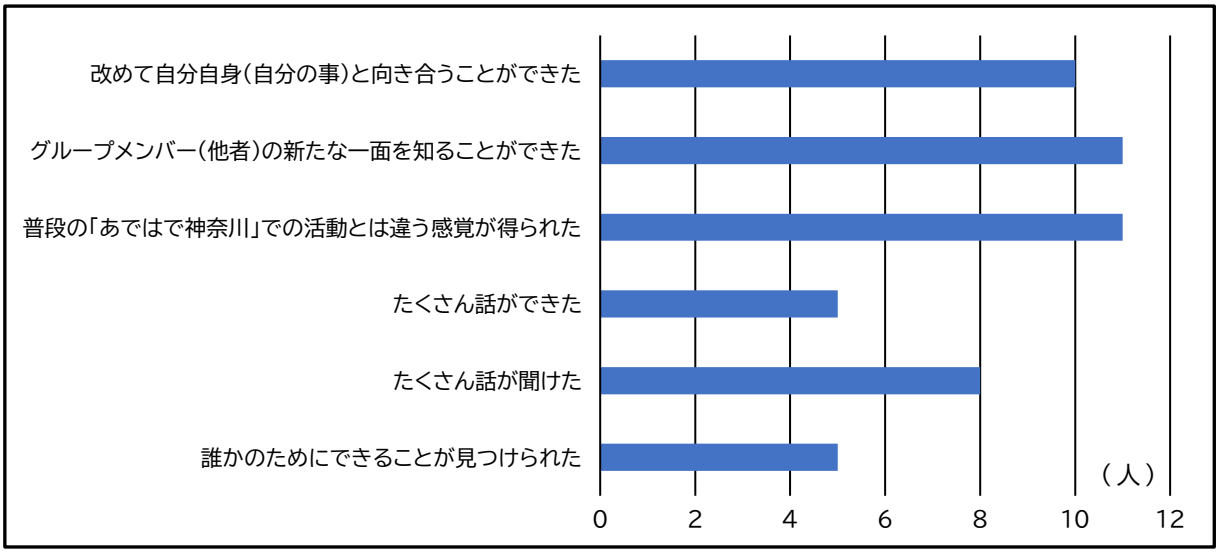
（4）「ワークショップ」参加者の声

今年度は、「自分らしく、人とつながろう。人との関係作りが苦手な人のボランティア活動」をテーマにワークショップを 1/30（日）、2/7（月）に対面で「あではで神奈川」の会員・メンバーを対象に開催しました。

また、昨今の新型コロナウイルス感染症の状況や「あではで神奈川」からの提案により、2/11（祝）にオンラインで追加開催しました。これにより、普段の「あではで神奈川」の活動に参加していなかった方、遠方にお住いの方の参加にもつながりました。

計 3 回のワークショップに参加いただいた皆さんにアンケートのご協力をいただいたのでご紹介します。

◆ワークショップに参加してみていかがでしたか？（複数回答）



◆ワークショップの感想

- 内容はとても面白かったです。 参加者が「あではで」関係の人だけだったので、他にも様々な立場の方の意見や話が聞けたらより楽しい時間になるだろうなと感じました。
- 今回のワークショップの題目「好きなこと、得意なこと」を聞かせてもらうことは、その人の楽しそうに話す気持ちも感じることができて温かい気持ちになりました
- 自分では見えにくい角度から考えられたのがよかったです
- 出来ることについて話し合うことで、自分も周りの人の事もたくさん知れて、そこから新しいものが生まれるのではないか、という期待を感じることが出来ました。
- 改めて自分を肯定的に見る事ができ、有意義でした。 また、当たり前ですが、好きなこと・得意なことを話すのはとても楽しいので、今回のワークショップのように、話すときは誰にも否定・邪魔されずに話せるようにすることが大事だと思いました。
- 堅苦しい会かもしれないと緊張して参加しましたが、楽しい時間を過ごさせていただきました。
- 自分に目を向ける機会を頂きました。自分では気が付かずにいたことを、発見したり見えなかたったものを知る機会となりました。
- 2/11 に参加したのですが、以降のワークショップにも参加したため、 印象が薄れてしまいました。楽しい時間だったことは覚えています。
- 自分の素敵なところ本人気付きにくいように感じ、ワークショップいい機会だと思いました。
- いろいろな人の考えが聞けて有意義でした。
- お題に対し先入観を持っていたが、実際には話し合いも盛り上がり、後良い感じがしました。
- 和やかであたたかいひとときでした。そのような空気感を作って下さった、岸川先生、新保さん、グループメンバーのみなさんに感謝いたします。自分のことを話すことで、自分に向き合うよい機会になりました。 これをきっかけに自分について、

もう一歩進めて考えていけたらと思いました。 ありがとうございました。

- 楽しく自由に話すことができました。
- 日頃は会の中で大変なことや悩んでいることを話したり聞いたりする機会が多いのでまた違った機会を与えられて仲間と前向きな部分を会話出来て嬉しかったです。仲間をより身近に感じられました。また講師、ファシリテーターがいて下さることで安心して話せたと思います。
- 皆さん、魅力的な方達でした。初めてお会いしたばかりでしたが、とても楽しかったです。

オンラインの回に参加いただいた方たちからの声

- 地方に住んでいて、こういうワークショップに参加する機会がなかったのでよかった。
- 感染の心配をせずにすんだ。思っていたより繋がれる感じがした。
- 個人的には、オンラインの方が印象に残りづらい感じがした。
- 家でできたのでよかった。

ワークショップのテーマや持ち方について、こんなご意見もいただきました

- 自分のできることを見つけ合い、認め合うワークがあっても良いと感じました。発達障害を持っている方は自己肯定がなかなか出来ない方もそれなりにいるので。 また、何回かワークショップをやって出てきた出来ることから、自分が参加してみたいものを見つけ、どんな事をやってみたいか話し合うワークもあって良いと思いました。 ニーズが見えてきたら、実際に参加できる場と結び付けて「どうすればその人らしく参加できるか」と模索したり、ここで場を作って進めていくのも良いかもしれません。
- ロールプレイによる共感能力（エンパシー）向上の試み。
- 少人数派が対象で、現在行われている県民センターの会を利用し、いつもの様に談話されたい方もいらっしゃるかもしれないのでそうしたブースを用意する等工夫しながら、その中で行うのはどうか。

- テーマはその時集まった方の旬の話題で、グループ分けするのも良いと思います。
- 対面で話すことがどんどん億劫になっていくと思います。オンラインはオンラインの良さがある。会の開催でもとても悩むところです。話す機会が失われてしまわないように考えていきたいです。

2. 人との関係づくりやコミュニケーションが苦手な人の「参加支援」

ここでは、この活動に関わった岸川先生とかながわボランティアセンターの職員が「価値創造型」と「課題解決型」の2つの側面から整理してみました。

発達障害の特性等をふまえ、自分が好きなことや得意なこと等を活かして、自分らしく、ありのままに生きるという価値を一般社会に伝える「価値創造型」。ボランティア（活動）の基本について押さえ、関わりにくいと感じる社会的課題とつながり、多様な形での参加の可能性を広げる「課題解決型」。この側面から、「人との関係づくりやコミュニケーションが苦手な人」の「参加支援」についてまとめています。

（1）価値創造型の側面から

1　障害のある人の「参加」

今から 41 年前、国連総会は 1981 年を「国際障害者年」と宣言し、障害のある人が社会に完全に参加し、融和する権利と機会を享受することを目指しました。当時の「障害」に対する理解は、世界保健機関（WHO）が 1980 年に刊行した「機能障害・能力障害・社会的不利の国際分類」（以下 ICIDH モデル）が主流になりつつありました。ICIDH モデルは「障害」を、「身体的な疾患や変調」が「機能・形態障害」を起こし、それに伴い「能力障害」が生じ、「能力障害」が「社会的な不利」を起こすことを、左から右の流れで示しています。この ICIDH モデルは「障害の階層性」を示し、「障害」を理解するには画期的なものでした。しかし、「社会的な不利」を克服するためには「能力障害」を克服し、「能力障害」を克服するためには「機能・形態障害」を克服し、「機能・形態障害」を克服するためには「身体的な疾患や変調」を克服する、つまり、病気や障害を治す「医学モデル」の考え方が根底にありました。「障害」の克服が社会参加においても求められていました。

しかし、時代の流れとともにノーマライゼーション思想の浸透、施設ケアからコミュニティケアへのシフト、バリアフリーやユニバーサルデザインの

普及などにより、障害に対する考え方が変化していきました。21 世紀になり、ICIDH モデルに替わる「国際障害機能分類」（以下 ICF モデル）が登場しました。ICF モデルは、「障害」を「身体的状況」「能力的状況」「参加の状況」といった価値判断を含まない表現に変更し、その人を取り巻く環境や必要な支援などを鑑みた「環境因子」、個人の属性や価値観などの「個人因子」も視野にいれて、人と環境を概観できるように工夫されています。ICF モデルは、ICIDH モデルのように、左から右の一方通行で「障害」を階層的に捉えるのではなく、個人と環境の状況を含めて、その人にとって何が「障害」になっているのか整理して捉える視点を示唆しています。病気や障害を治す「医学モデル」から、その人を取り巻く生活環境などに働きかけることで参加も可能になる「生活モデル」の視点にシフトしてきたことが伺えます。

社会参加、特に障害のある人など日常生活を送る上で配慮や支援が必要な人の社会参加は、当事者の「障害」を克服することが求められるのでなく、「その人のままで」参加できることが、21 世紀の社会には求められています。

2 発達障害の特性

次に、障害の中でも「参加」に多くの課題がある「発達障害」に着目してみたいと思います。「発達障害」は、①自閉スペクトラム症、②ADHD（注意欠陥・多動症）、③LD（学習障害、限局性学習症）などの特性を総称した概念です。主な「発達障害」の特性は次のとおりです。

①自閉スペクトラム症

- 興味関心のあることを一方的に話す、冗談や比喩が理解できないなど「コミュニケーション」の困難さがある
- 慣習やマナーの理解が乏しい、ルールに厳格で融通がきかない、集団が苦手など「社会性」の困難さがある
- こだわり行動や不変を好むなどを引き起こす「イマジネーション」の困難さがある

②ADHD（注意欠陥・多動症）

- 集中できないなどの不注意がある
- じっとしていられないなどの多動、多弁がある
- 考えるよりも先に動くなど衝動性がある
- スケジュールを立てて計画的に行動することが苦手
- 片付けやカバンや引き出しなどの整理整頓などが苦手
- すぐに怒り出す、泣き出すなど感情のコントロールが苦手
- じっくり考えて決める、決めるまでに時間がかかる

③LD（学習障害、限局性学習症）

- 読む、書く、話す、聴くあるいは推論することにおいて、同年齢、同じ知能のものと比較した場合、期待される技能獲得の面での欠陥を示す児童や青年で、学童の 5%とされる。
- 障害となっている部分以外、知的障害は認められない。

前述の「発達障害」の共通した特徴として、成長や発達に凸凹があり得意なことと苦手なことの偏りがある、人間関係を築くのが難しい、集団や組織に馴染めない、などがあります。特に対人関係に困難さを抱えており、社会参加がしたくてもできない人がたくさんいます。状況によっては社会や集団への参加がストレッサー（ストレス要因）となり、二次障害による精神疾患の発症、ひきこもりによる社会との接点の喪失など、社会生活上でのリスクが高い傾向にあります。

その一方で、マイナスな特性も見方によってはプラスに捉えられることがたくさんあります。例えば、自閉スペクトラム症の人は「ルールに厳格で融通がきかない＝裏表がなく律儀」と捉えることができると思います。また、ADHD の人の「衝動性」は、「行動力がある」という特性でもあります。それぞれの人が持っている力は未知数だと思います。

3 「発達障害」をとりまく福祉課題

「発達障害」は、21 世紀になって特に注目されるようになりました。その背景には、発達障害を疑われる人が事件の加害者や被害者になり、メディアで取り上げられることが増えたことが要因と考えられます。また、教育の場では、勉強は良くできるのに、集団に馴染まない、コミュニケーションを取るのがむずかしい子どもたちが増えているという声も多く聞かれるようになりました。不登校やひきこもりも、発達障害が原因なのではないかと囁かれるようになってきました。

こうしたことから日本では、2005 年に発達障害者支援法が施行されました。この法律は、自閉症、アスペルガー症候群、LD（学習障害、限局性学習症）、ADHD（注意欠陥・多動症）などを「発達障害」と総称し、既存の福祉制度の谷間に置かれ、その気づきや対応が遅れがちであったそれぞれの障害特性やライフステージに応じた支援を、国・自治体・国民の責務として定めた法律です。

2011 年には、「発達障害」が障害者基本法に「精神障害（発達障害を含む。）」という位置付けで「障害」に追加され、障害者福祉の支援対象者になりました。そして、2013 年に施行された障害者総合支援法では、「全ての国民が、障害の有無にかかわらず、等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重されるものである」との理念のもとで、「全ての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現すること」、「全ての障害者及び障害児が可能な限りその身近な場所において必要な日常生活又は社会生活を営むための支援を受けられることにより社会参加の機会が確保されること」、「地域社会において他の人々と共生することを妨げられないこと」、などを掲げています。

つまり、障害の有無に関わらず、だれもが社会の一員として社会参加する機会の保障を、社会は実現しなければなりません。人との関係づくりやコミュケーションが苦手とされる発達障害のある人も、その人らしく社会の一員として参加できる社会の実現が求められています。

4　人との関係づくりやコミュニケーションが苦手な人の「参加支援」

では、「発達障害」を含めた「人との関係づくりやコミュニケーションが苦手な人」の「参加支援」で求められる要素とは何か、ここで整理してみたいと思います。

①「その人のままで」参加する

社会参加のために、かつてはトレーニングを重ねて、コミュニケーション能力を高める、ソーシャルスキルトレーニング（SST）を通して社会生活能力を身につける、など個人の努力に力点が置かれていました。もちろん、夢や希望の実現のために、その人ががんばることは大切なことだと思います。しかし、個人の能力が向上しなければ参加できないのであれば、当事者は自分を否定されている感覚に陥り、「参加」が辛い経験になる可能性があります。ここで大切なことは、個人の能力に着目するだけではなく、当事者を取り巻く環境や社会に目を向けることが重要だと考えます。その人が「その人のまま」で十分に能力が発揮できる「場」が必ずあります。多くの人を巻き込み、そのままでも参加できる「場」を当事者と一緒に探すことが「参加支援」の一つなのだと考えます。

②「できること」に注目して参加する

「人との関係づくりやコミュニケーションが苦手な人」は、できないことや、苦手なことに焦点が当てられる傾向があります。しかし、それは他者との比較を通して、マイナスに捉える傾向があります。その反面、人にはだれでも「得意なこと」「好きなこと」「長く続けていること」などがあります。「できないこと」ではなく、「できること」に着目し、その人らしさを見つけることが「参加」の可能性を広げることができると考えます。ここでは、他者と比較をしたり、一定の基準で「できる」「できない」を評価するのではなく、その人にとって「できること」「得意なこと」を模索することが重要になります。視点を変えれば、マイナスにとらえられる「嫌いなこと」「苦手なこと」も「強み」に変換することもできるかもしれません。「できること」に焦点をあてることで「参加」につながる支援の可能性が広がると考えます。

③必要な支援を受けながら参加する

障害のある人に限らず、私たちは「自立」を求められます。では、「自立」とは何でしょうか。障害者福祉の領域では、「自立」を「必要な支援を受けながらその人らしい生活を送ること」という考え方を示しています。時に、「自立」の考え方が「被支援者からの脱却」にゆらぐこともありました。しかし、誰もが社会参加の機会を確保するためには、「必要な支援を受けながら」の参加があって当然なのだと思います。必要な支援を受けながら、その人らしく「参加」することが、誰もが参加するために、これからの社会には必要なのではないかと考えます。

5　おわりに

人との関係づくりやコミュニケーションが苦手な人の「参加支援」は、その人がその人のままその人らしく参加するために、その人の「できること」に焦点を当てながら、参加の「場」を見つけ、その「場」を多くの人を巻き込みながら創ることなのではないかと考えています。こうした参加支援の実現がだれもが参加をする機会の保障になるのだと思います。

（神奈川県立保健福祉大学　岸川　学）

（2）課題解決型の側面から

1　ボランティア―自らの意思で参加する

ボランティア（volunteer）はラテン語の「欲する」「求める」「願う」など、「意思」を表す「volo」（ウォロ）や「自由意思」という意味の「voluntas」（ボランタス）から生まれた言葉です。

つまり、ボランティアとは、「自らの意思で活動に参加する人、またはその活動」のことを指します。

一方、日本では、古くから「奉仕」という言葉があり、外来語のボランティアと共通点もあることから、一部では同じ意味に受け取られています。しかし、奉仕は言葉のとおり、「仕え奉る」ことで、厳密には、社会や自分より上位にある者に仕えて（指示されて）、行動するといった考えが根底にあります。こうしたことから、奉仕は、ボランティア本来の、個々人の自由な「意思」によるものとは根本的に異なるという声もあります。

2　ボランティア活動の考え方

ボランティア活動の基本となる考え方は、次の3つになります。

①自発性・自主性・主体性

ボランティアの語源にもあるように、ボランティア活動は、「自らの意思で（活動に）参加する」ことをいいます。活動は強制ではないのですが、時折、「やらされる」といった誤解や矛盾することもあります。

人に誘われて活動を始める場合もあります。この場合、自発的ではないのでボランティア活動ではないと思う人もいるかもしれませんが、「きっかけ」（動機）が何であれ、活動を重ねていくうちに、「活動する意味」（意義）は変わっていくことも、ボランティア活動にはよくある話です。

そして、自発性・自主性・主体性の観点から、ボランティアとボランティア活動先（依頼者）との関係は、あくまで「対等」であると考えられています。

②社会性（公益性、公共性）・連帯性（福祉性）

ボランティア活動には、社会的課題の解決をめざして取り組むものもあり、例えば、福祉や介護、教育、環境など、社会全体で活動の成果や価値を認め合い、共有できる活動を一般的には指しています。ですから、自発的に無償で取り組んだとしても、趣味の活動や仲間内での楽しみの類いは、ボランティア活動に含まないと言われています（例えば、自治会町内会、同窓会活動など）。

③無償性・無給性

ボランティアが対価を期待しない、求めない理由は、目の前の課題や困りごとに共感し、悩みや課題を抱える当事者との距離が近く、対等な立場で関わるからですが、他にもボランティアとして、「自由意思」の活動が保障されるために「無償性」である必要があります（※納得できない場合は「断ることもできる」）。さらに、市場経済の考えとは異なり、お金の尺度で活動を評価されない、成果としないことからでもあります。

現状では、交通費や食費、材料費などの実費弁償程度は謝礼・報酬に当たらないとし、無償の範囲内と考えられています。

3　身近になったボランティア活動

「阪神・淡路大震災」（1995 年）が起こった時、全国から、また、各国から大勢の人が被災地に集まり、炊き出しや片付け、救援物資の分配など、様々なボランティア活動が行われました。こうしたボランティア活動への意識や関心の高まりから、1995 年は「ボランティア元年」と呼ばれています。この流れは災害時だけではありません。その後、1998 年に特定非営利活動促進法（NPO 法）ができ、市民活動、NPO 活動も加わり、さらにボランティア活動は広がっていきました。

【全国数値】　ボランティア団体数17万5046、ボランティアの人数（団体所属人数と個人ボランティア数の合計）は、667万7675人となっています。
2022（令和 4）年 4 月現在。全国社会福祉協議会調べ

小、中、高校等では、2002 年頃から「総合的学習の時間」を通して、ボランティア活動などの社会奉仕体験がすすめられています。ここでは児童・生徒が地域社会への関心を高め、その体験活動からさらなるボランティア活動等へつながっていくことも期待されています。また、地域の社会福祉協議会のボランティアセンター等では、地域をフィールドにして、学校・教育機関や地域のボランティアグループ等と協働で福祉教育やボランティア講座を実施しています。このように私たちの身近なところで、ボランティア活動と出会う機会は増えてきました。

4　ボランティア活動のもつイメージ

ボランティア活動では、様々な人との出会いや会話する機会が重視されていて、こうした経験から得られるものが、「ボランティア活動の魅力」と言われています。また、「活動してみないとわからない」といった曖昧な部分が多いのも特徴の一つにあげられます。

しかし、「人との関係づくりやコミュニケーションが苦手な人」の中には上記のような魅力や特徴ゆえに違和感や不安を抱く人も出てきます。

社会には対人関係における困難さを抱えていても、何かしらの社会参加がしたいと望んでいる人はたくさんいます。なぜなら、人は、心の奥底に「誰かから認められたい」「自分を認めたい」といった承認の欲求（存在欲求の充実志向）を持っているからです。確かに、前述のボランティア活動の特徴は、一般的にはよく言われていますが、活動のイメージが固定的、限定的にならないよう、柔軟な捉え方も必要です。

「すべての人々にボランティア活動を行うチャンスが得られるよう、活動の意義が個々人違うように、活動メニューが豊富であるように、活動方法等についても、幅広い層からの参加が可能となることが求められています。

5　人との関係づくりやコミュニケーションが苦手な人の「参加支援」

ここで、発達障害を含め、「人との関係づくりやコミュニケーションが苦手な人」の「参加支援」に関連することを整理して述べます。

①課題解決型の側面から―「合理的配慮」の必要性

例えば、福祉施設でのボランティア活動には、話し相手、洗濯や洗濯物の仕分け、清掃・美化活動、囲碁・将棋の相手、レクリエーションや創作活動のサポートなどがあげられます。こうした活動は施設利用者の抱える「課題」の把握に努め、その課題の「解決」にむけた取り組みが活動目標と考えられています(「課題解決型」のボランティア活動)。そして、ボランティアには、施設利用者に心を配ること、寄り添うことが求められ、一定の協調性を必要とされる場面も出てきます。

人のため、社会のためといった「課題解決型」のボランティア活動はたくさんありますが、「人との関係づくりやコミュニケーションが苦手な人」がこうした活動に参加するには、個々の特性や状況に合わせて、「合理的配慮」等を受ける必要が出てくる場合もあります。

「合理的配慮」を知っていますか？

障害者差別解消法（2016 年制定）で、「不当な差別的取り扱い」の禁止、「合理的配慮」の提供は、就労だけでなく、ボランティア活動においても対象範囲となっています。

※ここでの「障害者」とは、障害者手帳等の有無を問いません。日常の社会生活で相当な制限を受けているすべての人を指しています。

※「合理的配慮」とは、障がいのある人が他の人との平等を基礎として、同様の人権と基本的自由を享受できるように、物事の本質を変えてしまったり、多大な負担を強いたりしない限りにおいて、配慮や調整を行うことです。

（参考）リーフレット「合理的配慮」を知っていますか？（2017 年,内閣府）
https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/pdf/gouriteki_hairyo/print.pdf

②「自分らしく生きる」考え方―当事者による社会に開かれた活動

ボランティア活動の考え方の一つである「自発性」や「自主性」は、やるべきことを自ら考え行動するといった意味になりますが、「自発性」や「自主性」を「自分らしく生きる」に変換してみると、「あではで神奈川」がめざしている活動と重なることに気づかされます。

「あではで神奈川」で定期的に行われる談話室やサロン、「自分らし

く生きる講演会」などの活動は、発達障害とその周辺の生きづらさを抱えた人たちが、社会でよりよく生きていくことを目的としています。自分や子どもを理解し、その特性を受け入れ、自分らしい生き方を見つけようとする活動の考え方は、22 頁の「2　ボランティア活動の考え方」で取りあげたすべての項目に合致し、セルフヘルプ・グループや当事者による多くの活動が「社会に開かれている」ことから考えると、これも「ボランティア活動」の一つの形態と捉えることができます。

いま、社会では、「社会的孤立・孤独」（関係性の貧困）や「社会的排除」が深刻なテーマとなっていますが、マイノリティにスポットを当てたセルフヘルプ・グループや当事者の活動は、まさに社会で「求められている」活動と言えるでしょう。

③ボランティア活動は「自分探し」の旅

ボランティア活動は、最初から社会的課題や「求められていること」に応えていくものもありますが、そればかりではなく、枠に捉われず、発想やアプローチを自由に変えてみて、まず、自身の「得意なこと」「好きなこと」、または、「できること」「やりたいこと」から始めてみても良いと思います。しかし、それでも、「得意？」「できることって何？」「やりたいことが見つからない」などと悩む人がいるかもしれませんが、ボランティア活動は「自分探し」や「目的探し」の旅と言われるように、そうした悩む気持ちも含め、目的がはっきり見えない状態からすでに活動は始まっていると考えられています。時には、家族や友人など身近な人に「私のできることってなんだろう」と気楽に聞いてみてもいいでしょう。そこで、自分では気づいていなかったことや忘れていたことを再発見（新発見）することができるかもしれません。また、専門職として、地域のボランティアセンターにいるボランティアコーディネーターも具体的に活動情報を持っているので、いろいろと相談してみることもお勧めします。

6　おわりに

ボランティア活動は限られた人が行うのではなく、誰もが行えるものにしていかなければなりません。また、ボランティアとボランティア活動先（依頼者）との関係は、双方向性・相互啓発性であって、あくまで「対等」であるということを、私たちは覚えておく必要があります。それは、「人との関係づくりやコミュニケーションが苦手な人」がボランティア活動や様々な社会参加の場において排除されない、孤立・孤独の状態に陥らないためでもあります。

今回のテーマ「人との関係づくりやコミュニケーションが苦手な人の『参加支援』～多様な形でのボランティア参加の可能性について～」は、これまでのボランティア活動を見直すうえでも、合理的配慮の提供を前向きに検討するうえでも、取り組む価値が高いと考えています。

（かながわボランティアセンター　松永　文和）

神奈川県社協のホームページ。
かながわボランティアセンターの案内や県内の市区町村社協（ボランティアセンター）の紹介等をしています。

http://knsyk.jp/c/volunteer_center/0a4e78d728730d63d886508100d24365#a01

≪資料編≫

（１） 特定非営利活動法人（NPO 法人）あではで神奈川

～自分らしく生きる～発達凸凹のある子どもと大人の
セルフヘルプの会です

あではでの活動のご案内

①各会（談話室）の活動

毎月、談話室を各会場で開いています。「あではで」が大事にしているのは、会員同士が会って、話し合うことです。自分自身の人生を語り、医療、療育、教育ではないところで、自分の、あるいは子供の持つ特性を理解し、その特性を持って生きる自分を受け入れ、自分らしい生き方を見つけようとしています。

原則一度まで見学ができます。詳しくはホームページをご覧ください。

https://www.adehade.net/

●成人の会（かながわ県民センター）…成人当事者の会
●あではでサロン（かながわ県民センター）…どなたでも参加可
●あおば談話室（アートフォーラムあざみ野）…親と当事者の会
●桜木町談話室（健康福祉総合センター）…親の会
●子育ての会（たまプラーザ地域ケアプラザ）…親の会
●大船談話室（笠間地域ケアプラザ）…親の会
●二俣川談話室（二俣川地域ケアプラザ）…親の会
●お父さんの会（かながわ県民センター）…父親の会
●たまプラーザ談話室（たまプラーザ地域ケアプラザ）
…発達について話す会
●トワエモア（たまプラーザ、または zoom）…パートナーについて話す会
●あではでワークス（西区福祉保健活動拠点フクシア）
…仕事について話す会
●中高生ルーム（かながわ県民センター）…中高生の居場所の会

②そのほかの活動

《あではでペアレントトレーニング》

親子関係を良く保つためのペアレントトレーニングをしています。月1回（全10回）6～7 人のグループで、勉強と経験を重ねた 母親会員（2 名）がセルフヘルプの立場でリーダーとなって進行します。コロナ禍で休止していましたが、次年度はプログラムをリニューアルして再開の予定です。

親が子どもを理解するとともに自分自身をも理解し、子どもが本来持っているもので子ども自身の人生を築いていくのを見守れるようになることを目指しています。

《「自分らしく生きる」講演会 》

毎年秋に「自分らしく生きる」と題して講演会をおこなっています。今年度は16回目になりました。会員が自分の生きてきたことをそのまま語ることを続けています。

《会報「あではで通信」》

年2回、会員限定のあではで通信を発行しています。第 36 号になりました。会員の投稿による日々の思いや経験、作品の紹介、各会の活動報告や講演会の記録、会員おすすめの図書などを掲載しています。表紙やイラストも会員や家族の皆さんから寄せられ、毎号を楽しみにしている会員が多いです。

～私たちの夢～

会が出来た頃の夢は、発達障害がみんなに知られ、一つの民族のように市民権を持つことでした。たくさんの専門家や親たちの忍耐、努力を経て、最初の夢の実現の兆しが見えてきました。

新たな夢は、児童精神科医の佐々木正美先生からのメッセージ「発達障害のまま幸せに生きる」ということです。これも、私たちの想いを超えた速さで実現できる日が来ることを願っています。

（2）地域福祉活動支援事業（協働モデル事業）の取り組み

1. 企画ミーティング

※オンラインによる開催

年　月　日	内　　容
〈第 1 回〉 R3.7.1（木）※	1. 令和 3 年度の取り組みについて（確認） 2. 今年度の講演会について 3. 役割分担について（確認） 4. 今後の進め方について
〈第 2 回〉 R3.10.14（木）※	1. ワークショップの方向性について 2. 講演会について 3. 協議書について 4. 役割分担について
〈第 3 回〉 R3.11.21（日） 横浜市社会福祉センター 大会議室 8 AB	＊第１６回「自分らしく生きる」講演会後に開催。 あでは で神奈川の会員 6 名が新たに加わった ため、協働モデル事業の説明を行った。 1. ワークショップの企画について
〈第 4 回〉 R.3.12.17（金）※	1. ワークショップについて 2. 役割分担について
〈第 5 回〉 R4.2.17（木）※	1. 協働モデル事業の経過報告 2. まとめ集の企画 3. 今後の作業の確認等
〈第 6 回〉 R4.2.28（月）※	1. 今年度の振り返り 2. 今後に向けて

2. ワークショップ

※オンラインによる開催

年　月　日	内　　容
〈第 1 回〉 R4.1.30（日） TKP 横浜会議室 ホール 7A （参加者 7 名）	〔テーマ〕自分らしく、人とつながろう。誰かのために できることを見つけよう。 〔内　容〕ワークショップ 1. グループメンバーに伝えたい「私の好きなこと」 2. グループメンバーに伝えたい「私の得意なこと」 3. 誰かのために私がやってみたいこと 〔講　師〕岸川　学（神奈川県立保健福祉大学講師） 〔ファシリテーター〕神奈川県社会福祉協議会
〈第 2 回〉 R4.2.7（月） TKP 横浜会議室 ホール 7A （参加者 6 名）	＊第 1 回と同じ
〈第 3 回〉 R4.2.11（金）※ （参加者 8 名）	＊第 1 回と同じ

3.「まとめ集」の発行（６００部）

（3）地域福祉活動支援事業（協働モデル事業） 構成員名簿

（あではで神奈川）

No.	氏 名	所 属
1	山田 三千代	特定非営利活動法人 あではで神奈川 理事長
2	佐々木 京子	〃 理事（連絡担当者）
3	篠山 淳子	〃 顧問
4	田村 幸子	〃 理事（会計担当者）
5	宇田 幸代	〃 理事
6	加藤 正樹	〃 監事
7	矢戸 晃史	〃 会員

ほか3名

（アドバイザー）

No.	氏 名	所 属
1	岸川 学	神奈川県立保健福祉大学社会福祉学科 講師

（事務局） 社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

No.	氏 名	所 属
1	松永 文和	かながわボランティアセンター 主幹
2	新保 佑登	〃 主事

【事務局】

（福）神奈川県社会福祉協議会
かながわボランティアセンター（地域福祉部地域課）
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2 かながわ県民センター12F
Tel 045-312-4813 Fax 045-312-6307
e-mail: kvc@knsyk.jp

自分らしく、人とつながろう。
人との関係づくりが苦手な人のボランティア活動推進事業
≪まとめ集≫

2021（令和3年度）地域福祉活動支援事業（協働モデル事業）

特定非営利活動法人あではで神奈川
社会福祉法人　神奈川県社会福祉協議会

表紙イラスト：齋藤　優希さん

齋藤さんからのメッセージ
　個性豊かなあではでっ子を色とりどりの花束に見立てて描きました。ダメなところばかりじゃなく、お互いの個性を認め尊重しあえる世の中になるといいなと思っています。